

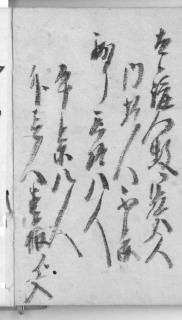
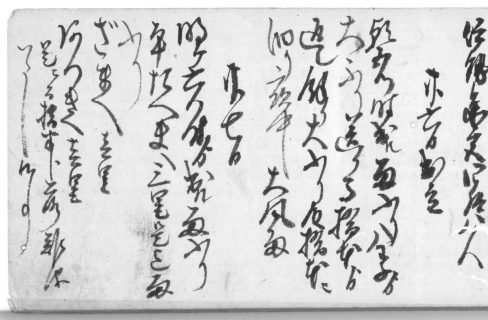
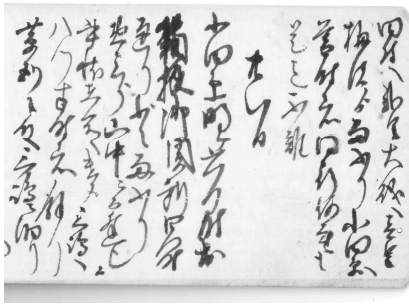
# 郷土の古文書

編集・発行：五日市郷土館

あきる野市五日市920-1

発行：令和6年1月11日

## その37 伊勢参宮道中日記(一)



### 解説文

戊辰十三年 紙数  
覚日記  
申正月吉日 有合

(横半帳・表紙)

太々講人数四拾八人

内拾人不参  
残り三拾八人

平参八人

外老人青梅方入

伊勢参宮四拾八人

廿六日出立

朝五ツ時出ル 雨ふり

八王子方大ぶり 送り馬

橋本方返シ 余り大ぶり

故橋本ニ泊り 夜中大風

雨

廿七日

明ヶ六ツ時方出ル 雨ふ

り 平たへまへ三里 是迄

雨ふり さまへ耆里 あつ

ぎへ耆里 是二而橋半分落

難儀いたし候 事 田村

へ式里 大磯へ耆里 梅沢

方雨ふり 小田原へ暮時

着 同行何連も是迄不難

着 廿八日

小田原明ヶ六ツ時出 箱

根御関所四ツ時 通り

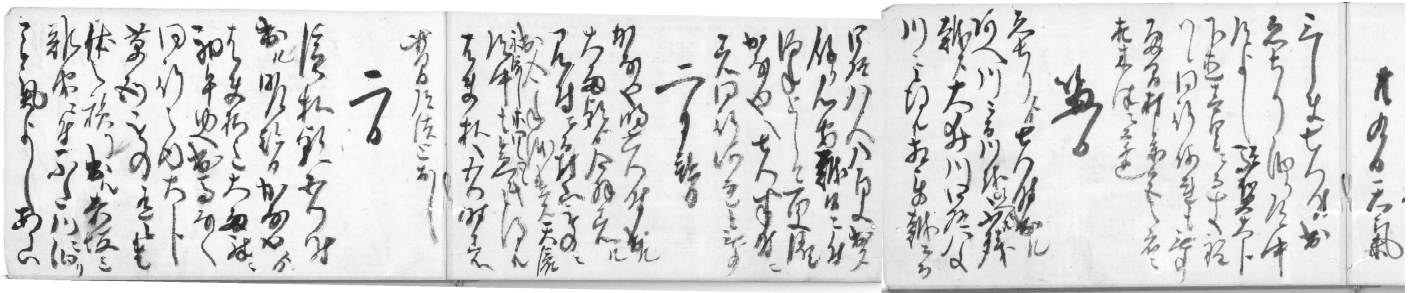
少々雨ふり 惣三郎山中

二而逢申候而書状在所へ遣

ス 三嶋へ八ツ半時着

余り草臥候故三嶋泊

り



廿九日 天気

三しま七ツ時出 忍ちり

泊り 道中道よし 駄賃

大分下直耆里 而十文程

ツ、同行何連も無事

雨間村参宮之者ニ於木津

而逢

晦日

忍ちり方七ツ時出ル 阿へ

川 而川越候へ共不残越ス

大井川四拾八文ツ、候

得共相乗越 而 四拾八

人八百文出ス 余り

心安越候ニ付酒手とし

て百文渡シ かなやへ七ツ

半時着 同行何連も無

事

二月朔日

かなや明六ツ時出ル 大

雨朝方合羽着ル 見付ニ

村山ものニ出合手紙遣ス

天流舟渡し廿四文ツ、

道中も急ギ候得共はま松

へ五ツ時着 此間道法と

おし

二日

濱松朝五ツ時出ル 昨

朔日かなや方はま松迄

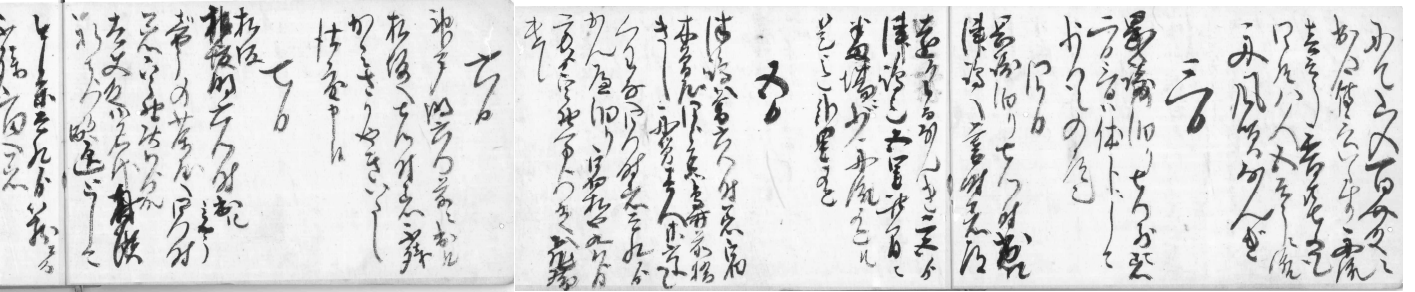
大雨殊ニ初午ゆへ出馬な

く同行之内大分草臥も

の有之候者休之積り出

ル 前坂迄難儀ニ付ふた川

ニ泊り 天気よし ありがたい



三日

にて山入百介殿ニ出合伝

言いたす 舟渡シ耆そう

三百廿七文ツ、四拾八人

五そうニ渡ル 舟風吹なん

ぎ

三日

岡崎泊り 七ツ前ニ着 二

日三日八休分ニして少

ツへの道也

四日

岡崎泊り 七ツ時出ル

津嶋へ暮時着 道遠ク候而

なんき 宮方津嶋迄五里

此間一番場ニ少舟渡シ有ル

是迄式里有

五日

津嶋へ暮六ツ時着 宿木

曾屋四郎兵衛 鳥井前橋

きし 舟賃老人廿六文

ツ、くわなへ四ツ時着 そ

れ方かんへ泊り 宿松や

九左衛門方方宇野万右

衛門殿へ飛脚遣候

六日

神戸明六ツ前ニ出ル 松坂

へ七ツ時着 不残

かミさかやきいたし

仕度申候

七日

松坂明六ツ時出ル ミや

う志やうの茶屋へ四ツ時

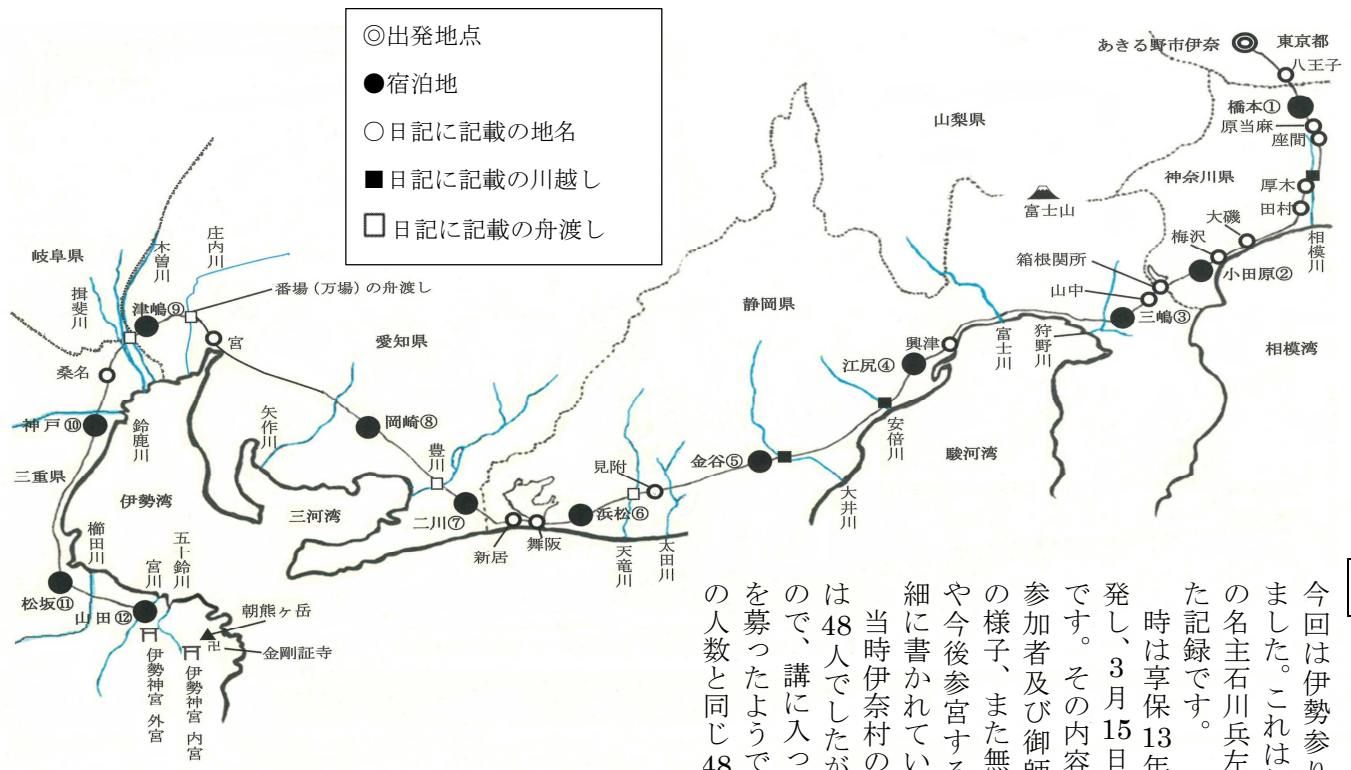
着 宇野次左衛門様 太

夫殿御名代対談 新右

衛門殿 酒 迎として

被参 それ方籠 而不残

山田へ着



**解説**

今回は伊勢参りの道中日記を取り上げました。これは伊奈村(あきる野市伊奈)の名主石川兵左衛門(33歳)の書き残した記録です。

時は享保13年(1728)正月26日出発し、3月15日帰宅する迄の道中の日記です。その内容は宿泊場所、舟渡しや、参加者及び御師の関係者等への気遣いの様子、また無事帰郷した後に、全費用や今後参宮する人のための心得まで詳細に書かれています。

当時伊奈村の伊勢講(太々講)の仲間48人でしたが、内10人不参加者がいたので、講に入っていない人からも参加者を募ったようです。結局参加者は、講中の人数と同じ48人で、現代の観光ツアー

としても多人数の方でした。兵左衛門はこの世話役として50日もの間、多方面に気を遣いながら人々を取りまとめているます。名主とはいえ、旅が無事終わるまでの苦労は察するにあまりありません。

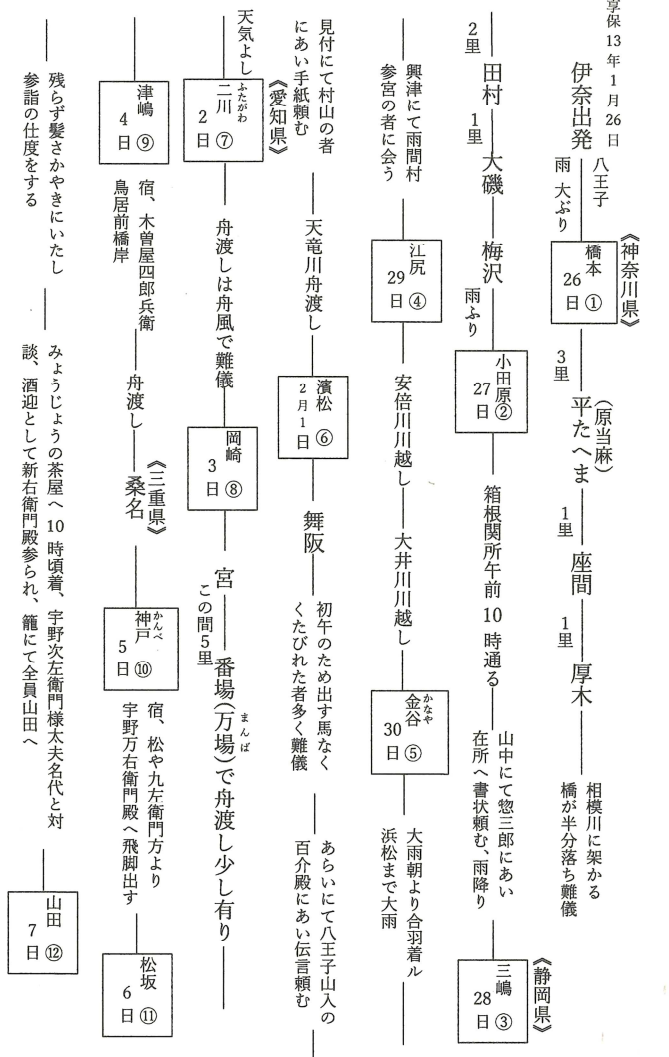
ところで、伊勢参りは「伊勢詣」といい、はじめは皇室の祖先神を祀る所として、庶民の奉幣を禁じていました。その後、朝廷の財政上の都合等もあり、平安時代末期頃から一般の霊山熊野信仰などと同じく御師の制度を生み、広く国民各層の信仰を集めたのです。

当地方の伊勢詣はずっと遅れて、江戸時代になってからと思えます。管見による市内での記録は、この石川家の文書が最も早い方ではないでしょうか。文化・

文政期頃になると、信仰のためと称し伊勢詣や西国三十三か所・四国八十八か所巡りなど物見遊山を兼ねた神社仏閣(しゃし)参拝が益々盛況になり、幕府から奢侈(しゃし)禁止令が出される程、一般庶民の賑わいがあったようです。しかし、その記録は少ししか見られません。

この記録を読むと一日30kmから50km、雨の中でも歩き通すという強行軍です。当時の人達の強靱な体力と精神力には全く驚嘆させられます。

尚、紙面の都合上連続4回に分けて発行します。1回目は伊奈の宿を出発して伊勢山田へ着いたところまでです。



伊勢参宮道中日記(一)の道中図解 ※□内は泊った所 [東京都あきる野市伊奈から三重県伊勢市山田まで]